

# 令和6年度病害虫発生予察注意報第2号

令和6年9月3日  
山 梨 県

病害虫名：果樹カメムシ類  
対象作物：果樹

## 1 内容

発生時期：平年並

発生量：多い

発生地域：全域

## 2 注意報発令の根拠

- (1) 春先から発生量が多く、新成虫の発生量も多い。
- (2) 8月下旬の定点調査地点におけるフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は平年と比べて南アルプス市で4.4倍、甲州市で1.4倍となっている(図1)。8月1か月間のチャバネアオカメムシの合計誘殺数は、南アルプス市で376頭(平年85.6頭、平年比4.4倍)、甲州市で164頭(平年38.9頭、平年比4.2倍)と平年と比べて多かった。
- (3) 病害虫防除員から、果樹カメムシ類による果樹類への被害が平年と比べて「やや多い～多い」との報告が寄せられている。
- (4) 気象庁発表の関東甲信地方1か月予報(令和6年8月29日発表)によると平均気温は高く、降水量は多い見込みである。

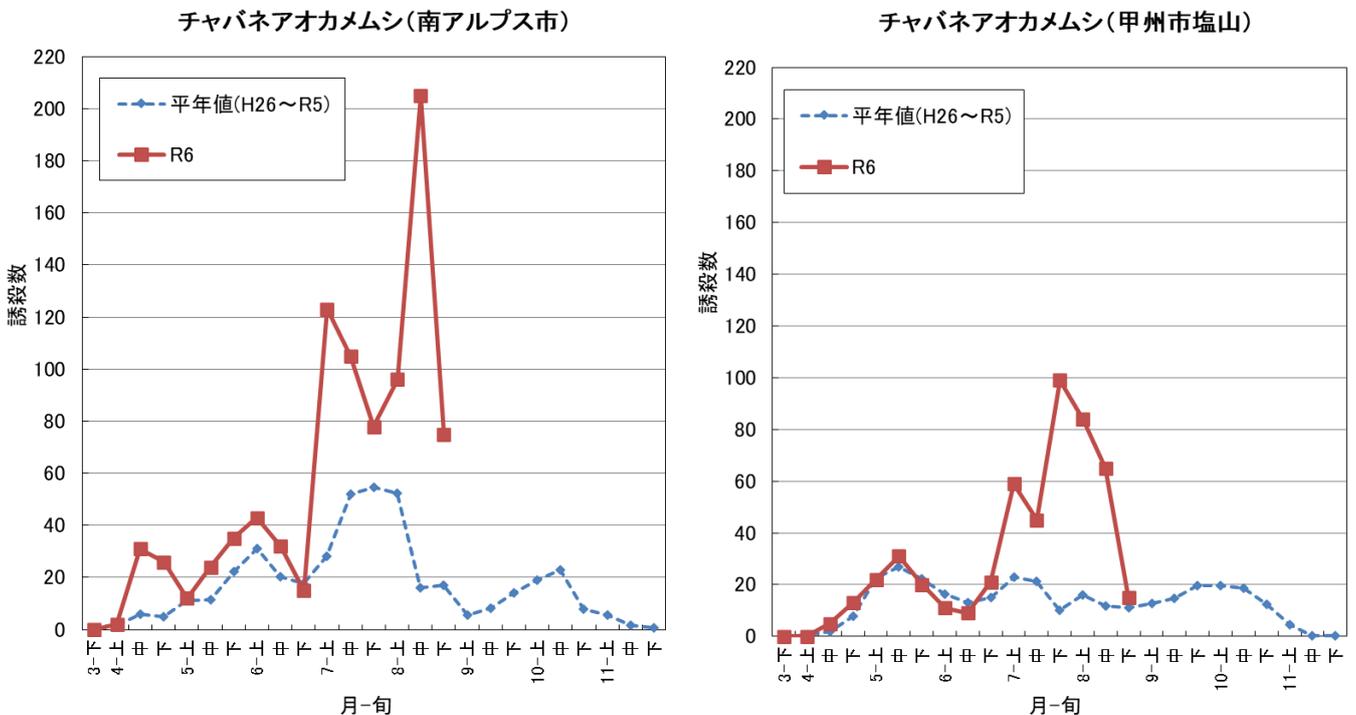


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

(山梨県病害虫防除所調べ)

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) ブドウ、カキ、キウイ等の果実が加害される。なお、シャインマスカットでは、袋をかけていても袋と果実の密着部分を吸汁する被害が見られる場合がある（写真1、2）。  
参考：平成30年度果樹試験場成果情報  
「収穫期のブドウ「シャインマスカット」におけるチャバネアオカメムシの被害」  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kajushiken/h30seika.html>
- (2) 果樹カメムシ類は日没前後に山間部から果樹園へ飛来するので、発生状況の確認は夕方～夜間及び早朝に園を見回る。薬剤散布は夕方またはカメムシの動きの鈍い早朝におこなうと効果的である。
- (3) 発生状況に応じて地域ごとに一斉防除を行う。
- (4) 防除薬剤は表1を参照する。薬剤散布にあたっては、登録内容を厳守し、飛散防止対策を徹底する。

表1 カメムシ類の主な防除薬剤 (令和6年8月現在)

分類	RAC	薬剤名	適用作物名				
			希釈倍率、使用時期/本剤の使用回数				
			ブドウ	カキ	ナシ	リンゴ	キウイ
合成ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	※	3,000～6,000倍 3日前まで /2回以内	3,000～6,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /1回	3,000倍 前日まで /2回以内
		アーデントフロアブル	※	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	—
		スカウトフロアブル	※	1,500倍 7日まで /5回以内	1,500倍 前日まで /5回以内	1,500～2,000倍 前日まで /5回以内	※
ネオニコチノイド系	4A	スタークル /アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	1,000～2,000倍 前日まで /3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	※	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	※
		ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～4,000倍 7日前まで /3回以内	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～4,000倍 前日まで /3回以内

※作目登録はあるが、カメムシ類としての登録がない。



写真1 シャインマスカットの吸汁被害



写真2 シャインマスカットの吸汁被害 (拡大図)